

■山本特別顧問が文化勲章受章 (2025年11月)

山本尚氏（EAJ中部特別顧問、中部大学卓越教授、シカゴ大学名誉教授、名古屋大学特別教授）が2025年度の文化勲章を受章されました。

山本氏は、巨大で複雑な構造をもつ酵素の機能を単純化した、C2対称軸を有するキラール・ルイス酸触媒を用いることにより、鏡像異性体の一方を選択的に生成する不斉合成を世界に先駆けて実現されました。さらに、この研究を原点として、触媒構造を自在に設計し反応を精密に制御する「分子性酸触媒」の概念を確立されました。この概念は、現在では当該分野のスタンダードとなり、医薬品製造などに不可欠な技術として広く活用されています。

山本氏の酸触媒の研究は、近年はペプチド化学へと広がり、ペプチド創薬に向けたペプチド合成・スクリーニング手法の革新により、従来1年を要していた合成期間を1週間に短縮するとともに、高額医薬品を従来の1,000分の1スケールで低価格化することを目指し、低所得国の市民にも手の届く医薬品の実現に取り組んでおられます。

この度の御受章に、心よりお慶び申し上げます。

(会員・幅上茂樹)



■国際シンポジウムを南京で開催 (2025年11月)

持続可能な発展とモビリティ国際シンポジウムが11月1日に中国南京市で盛況に開催されました。

ホストはEAJ客員会員の張峻屹教授（東南大学）が務め、基調講演はローマクラブから作家・哲学者のSilvia Zimmermann共同会長、交通学者の林良嗣執行役員・日本代表、元欧州柔道チャンピオン・柔道史家のMichel Brousse会員など、学際的な専門家が登壇しました。講演では、モビリティ、空間情報技術、AI、バイオ医学、サプライチェーンと物流、観光などとともに、モビリティを「他者の持つ価値を分かち合う手段」として再定義して、万人の共感を招く美術・芸術、相手を敬い距離を縮める柔道のスピリットが語られました。さらに、「交通×エネルギー×材料」「人文芸術×観光×地域振興」「AI×認識×ガバナンス」「地理×生態×健康」という並行セッションが設けられ、ポストSDGsのあり方について活発な議論が交わされました。この様子は中国最大メディア新華社に報道され、170万回以上の閲覧が記録されました。

(客員会員・張峻屹)



■中部レクチャーが「会員が選ぶ 行事賞」受賞（2025年6月）

第13回日本工学アカデミー（EAJ）定時社員総会に合わせて、「2024年度事業：理事が選ぶ事業貢献賞」の表彰式が挙行されました。5部門の中で「会員が選ぶ行事賞」は対象54件から5件が選出され、中部支部は4年連続での受賞となりました。対象は2024年9月20日に東海学園大学の協賛を得て同大学で開催された、文化人類学者・上田紀行氏（東京工業大学特命教授（当時））による第20回EAJ中部支部レクチャー「リベラルアーツと工学の融合、未来社会への提言」です。

上田氏は、斬新なイノベーションや良き工学のためには工学者の人間性が不可欠であるとの考えを基盤として、東工大で展開されたリベラルアーツ教育について幅広く言及されました。推薦理由は、「良き工学に向かうには何が必要か、リベラルアーツが果たすべき役割は何か、企業は個性的な人材を本当に活かせるのかなど、についての問いかけの意義は大きい。」でした。関係各位のご支援とご協力に感謝します。（副支部長・岩井善郎）

